

「おもしろがる力」と「感動する心」！

～全校集会 10 月 14 日(水)の校長講話から～

佐伯胖先生(大学の先生)という人が「おもしろがる学力」ということをいっています。学力には「取り戻せる学力(大きくなってからでも自分の努力次第で何とかできる)」と「取り戻せない学力(小さい時でないとな身に付かない)」があるということです。「三平方の定理」ができない場合でも後から努力すれば何とかできるけれど、楽しそうによく学ぶことができる力、知的好奇心を持つということ「おもしろがる力」は、大人になってから身に付けるのはなかなかたいへんなのだそうです。もう一つは、物事を見て・聞いて・体験して感動するという体験をたくさんしてほしいし、また、そんな心を育てたいと思っています。なぜなら、「感動する心」は「行動する力」を生み出すからです。

今回は、これらのことを小山田小学校の子どもたちに伝えたくて、以下のような話をしました。

本当にあった話です。

宮本さんは、小さいときは勉強があまり好きではなく、中学 3 年になってもかけざん九九は 2 の段までしかできず、漢字も自分の名前だけしか書けないような人でした。その後、高校にも行けず建築業のお手伝いやフリーターなどをしていましたが、やることなすことうまくいかなかったそうです。ある時、ご両親が病気で亡くなってしまいました。大好きだったお父さん、お母さんだったのでたいへん悲しみました。両親の死に向かい合って思ったのは、「人間って寿命があるんだ。生きていられる時間は無限ではない。何年生きられるかわからないけど、自分が一生を終えるとき、満足できる生き方をしなければ。」ということをはっと思ったのです。そして、「俺はこのままでいいの。何も知らずに過ごしていいの。生きていられるうちに何かをしなければ。」と思い、自分のまわり、世の中や自然をよく見てみたら、おもしろそうなんだけど自分は、知らない、分からないことがたくさんあるような気になってきたそうです。それからもんもんとした日々が続きました。

そんな中、たまたま出会ったのが、「宇宙」について説明している 1 本のビデオでした。それまでは全然興味がなかった分野だったけど、何か宮本さんの心に響き、繰り返し、繰り返し見たそうです。「すごい。おもしろい。そうなんだ。本当かな。その先はどうなっているんだ。不思議だなあ。」そんな言葉とともに、「宇宙についてもっともっと知りたい。自分の力で宇宙の仕組みで分からないことを分かるようにしてみたい。」と思いました。そのためには大学に行かなければならない。そう思ったのが 23 歳、それから小学 3 年生のドリルを買って猛勉強しました。24 歳の時に定時制高校に入学、働きながら大学を目指しました。大学はどこでもいいのではなく「宇宙」についてしっかりと学べる大学がいい。そうやって調べ上げたのが名古屋大学理学部物理学科というところでした。宮本さんにとってはどれ位で入学できるか分からなかったけど、周りの人に聞いてみたら「入学するのは本当に難しい大学だよ。おまえがいくら勉強したって手が届くような所じゃないよ。」と教えてくれました。そういわれても、宇宙について学びたいことがますます広がっていったので、宇宙や自然についてもっと知りたいという気持ちは少しも揺らぎませんでした。「よーし、何としても入学したい。」と思い、猛勉強が始まりました。仕事に行く前にも、午後 5 時から学校の勉強、9 時に終わってからも 12 時まで勉強したそうです。がんばっている人には、応援してくれる人が出てきます。宮本さんも、学校が終わってから(午後 9 時から)残って個別指導をしてくれる先生などもいました。一日一日力がついてくるのが分かるぐらいの変化だったそうです。そして、そして、周りの人には信じられない事だったので、進学校の生徒でさえ難しいといわれている難関国立大学(名古屋大学はノーベル賞を 3 人も出している大学、特に、物理は名門です。)に、しかも、現役で合格をしてしまったのです。

Mさんは、「宇宙のビデオ(アインシュタイン・ロマン)」と出会い、行動へのスイッチが入りましたが、スイッチを入れるために、大事なものを持っていました。それは、小さいときには勉強はできなかったけど、「例えば夕焼けを美しいと感じ、感動する気持ち」や「いろいろなものを、これっておもしろいねと思える力」などを持っていました。世の中には、美しいもの・すばらしいもの・不思議なもの・おもしろいものがたくさんあります。皆さんも、大事なスイッチがしっかりとはいるように、**目や耳をしっかりと使い、そして、頭や心をしっかりと働かせて、いろいろ感じ体験し、たくさん感動する心を大事にしてくださいね。**

人は、誰でも、どんな環境にあっても、ある出会いやきっかけを契機として、しっかりした、揺るぎない、その人にとって大事な目標や夢を手にし、大きな飛躍につながっていくということがあります。その一つの例として宮本さんの話を子どもたちに紹介しました。そして、「しっかりと**目標を持つ、夢を持って努力するというのは、ものすごい力を発揮するんだ。**」ということ、あらためて感じています。

「子どもたちには無限の可能性がある。」とはよく聞く言葉ですが、この事例などをみても、「そうだ、無限なんだ!」と意を強くしています。私たちは、そんな一人一人の子どもたちのために何が大事かを考え、ていねいに、手をさしのべていかねばと思っています。

繰り返しますが、このお話は実話であり、実在の人物(宮本延春さん)のお話です。脚色もしておりません。